

電信寫

353

1383

外機密

民國四年 (通海縣志) 卷三十三
 全通海縣志 (太平縣志) 卷之三
 五 (附) (太平縣志) 卷之三
 民國七年 (比身) 卷之三 (一)

INT 265 172

352A

1383

The following part of the report is a list of the names of the persons who were in the service of the Japanese in the island of Formosa during the period of the Japanese occupation. The names are given in the order in which they were received by the Japanese authorities. The names are given in the order in which they were received by the Japanese authorities. The names are given in the order in which they were received by the Japanese authorities.

INT 265 171

外機密

コトニ依リ、世界平和ヲ助長シ且現ニ文明ヲ促進セントスル情アル懸シムヘキ是れヲ假令一掃セシムルコト不可能ナリトスルモ之カ專化ヲ抑制センコトハ兩國政府ノ虞難ナル希冀ナリ

斯ナル果斷ナル措置ノ爲ニハ長期ノ交渉ハ不適當ニシテ又效果薄弱ナリ、仍テ兩國政府ハ兩國政府ヲ不取敢道義的ニ且其ノ行動ニ關シ拘束スヘキ一般の了解ヲ成立セシメ之ヲ完成スル爲ニハ適當ノ手段ヲ案出實施スルコトヲ希冀ス

兩國政府ハ新ル了解ニハ緊急ヲ要スル重要問題ノミヲ包含セシメ後日會議ノ準備ニ關リ得ヘキ附隨の事項ハ之ヲ含マシメサルコト然ルヘシト信ス

兩國政府ハ左ノ如キ決定ノ意思及態度ヲ明確ニシ又ハ放棄スルニ

電信寫

一、兩國關係及國家ノ本質ニ關スル合衆國及日本國ノ概念

二、歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

三、日支間ノ和平解決ニ對スル措置

四、兩國間ノ通商

五、太平洋地域ニ於ケル兩國ノ經濟的活動

六、太平洋地域ニ於ケル政治的安定ニ關スル兩國政府ノ方針

七、比律賓群島ノ中立化

八、合衆國政府及日本國政府ハ茲ニ左ノ相互的ノ了解及政策ノ宣言

ニ同意セリ

一、兩國關係及國家ノ本質ニ關スル合衆國及日本國ノ概念

外機密

兩國政府ハ其ノ關係ハ本領的平和ノ樹立並ニ兩國民間ノ相互信頼
 及協力ノ新時代ノ開始ヲ目的トスルモノナルコトヲ確信ス
 兩國政府ハ各關係及各民族ヲ正確及公平ニ依ル萬邦協和ノ理想ノ
 下ニ生存スル一字ヲ為ストハ其ノ傳統的及現在ニ於ケル觀念及總
 體ナルコトヲ聲明ス雖チ平和の手願ニ依リ抗辯セラレ且暫時の及
 物質的難題ノ追求ヲ目的トスル相國の利害關係ニ基キ何レモ等シ
 ク權利ヲ享有シ責任ヲ容認ス而シテ右關係タルヤ各國家及民族
 他ノ為ニ之ヲ設限スヘカラサルカ如ク自ラノ為ニ之ヲ擴張スル
 モノトス更ニ兩國政府ハ他ノ民族ノ抑壓又ハ釋放ヲ排撃スヘキ各
 自ノ責任ヲ容認ス
 兩國政府ハ國家ノ本質ニ關スル各自ノ傳統的觀念並ニ社會的秩序

電信寫

外機密

及國家地位ニ關スル並發的進歩的差別ハ糾纏キ之ヲ容認スヘキ凡
 迄進歩的差別及觀念ニ反スル外來ノ思想又ハ「イデオロギー」ニ
 依リ變改セシメサルコトヲ固ク決意ス
 三 歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度
 日本國政府ハ三國條約ノ目的カ達至ニ於テモ又現在ニ於テモ防衛
 的ニシテ彼等ニ依ラサル歐洲戰爭ノ擴大防止ニ善兵セントスルモ
 ノナルコトヲ聲明ス
 合衆國政府ハ其ノ歐洲戰爭ニ對スル態度ハ現在及今後を防護ト自
 認シテ自國ノ安全ト之カ防衛ノ考慮ニ依リテノミ決セラルヘキモ
 ノナルコトヲ聲明ス

電報ノ
ノ
イ
ケ
ケ
存

1383

395 A

一九一九年五月三十一日
合衆國政府ノ附屬電加書ノ代リトシテ
附書セラル

日支間ノ和平解決ニ關スル措置

日本政府ハ合衆國政府ニ對シ日本國政府カ支那國政府トノ和平
解決交渉ヲ提議スヘキ場合ニ於ケル前提的一條件即チ日本國政
府ノ聲明スルトコロニ依レハ善隣友好、忠實及領土ノ相互尊重ニ
關スル近頃原則ニ右原則ノ實際的應用ニ手置キタル條件ヲ提
議シタルヲ以テ合衆國大統領ハ文部省政府及日本國政府ノ提
議ニ對シテ且支那ニ對シテ亦提議ニ於テ支那國政府ノ善隣及和平

外機密

1383

電信寫

376

加部ノ食部ノコノ交渉ニ入ル體支那國政府ニ提議スヘキ

第三項ノ前記案文ハ其趣意即チ對スル共同防衛問題一文
部領土ニ於ケル日本軍隊ノ駐屯問題ヲ含ム及日支間ノ
經濟的協力ノ問題ニ關スル今後ノ討論ニ依リ變更セラル
ルコトアルヘシ、第三項ノ案文修正ノ範圍ニ關シテハ加
部ナル修正提案モ本項ニ關シ附屬書ニ指ケラレタル一切
ノ點力筋足ニ起草セラレ本項及附屬書カ全體トシテ検討
シ得ルニ望ミタル上ニテ考究スルコト幾モ好都合ナリト
願ス

日支間ノ關係

本了解方南國政府ニ依リ公式ニ承認セラレタルトキハ合衆國及

日本國へ所屬ノ一方カ供給シ得テ他方カ必要トスルカ如キ物ヲ相互ニ供給スヘキコトヲ保障スヘシ所謂政府へ更ニ管テ日米通商航海條約ニ若干條立セラレ居タルカ如キ正當ノ通商關係ヲ改善セシムルニ必要ナル措置ヲ講スルコトニ同意ス、若シ新條商條約カ帝國政府ニ依リ簽置セラルトキハ右ヘ出来得ル限り進カニ交渉セラルヘク且適當ノ手續ニ從ヒ管轄セラルヘシ

又太平洋地域ニ於ケル通商ノ經濟的活動

太平洋方面ニ於ケル日本國及美國ノ活動ハ平和的的手段ニ依リ且兩國通商關係ニ於ケル無差別待遇ノ原則ニ遵ヒ行ヘルヘシトノ意ニ爲アレタル相互的條約ニ基テ日本國政府及合衆國政府ハ兩國カ共々自由經濟ノ促進及發展ノ爲メ必要トスル手段實施ス

兩國ヲ管ケ得ル範圍ニ互ニ協力スヘキコトヲ前ス
 太平洋地域ニ於ケル政治的安定ニ關スル兩國ノ方針
 兩國政府ヘ本了解ノ基調ヲ爲ス文書の方針ハ太平洋地域ニ於ケル平和ナルコト、協力的努力ニ依リ太平洋地域ニ於ケル平和ノ維持及保全ニ貢獻スルヘ兩國政府ノ根本目的ナルコトニ前圖ノ何レモ前記地域ニ於テ領土的企圖ヲ有セタルコトヲ證明ス

又比律賓群島ノ中立化

日本國政府ハ合衆國政府カ希望スル時期ニ於テ合衆國政府ト比律賓ノ獨立カ完成セラルヘキ限ニ於ケル比律賓群島ノ中立化ノコトノ條約締結ヲ目的トスル交渉ニ入ル用意アリコトヲ證明ス